

V.G 槻 輪 だ よ り

会 報 第 9 9 号
発行日 平成25年1月1日
発行・編集 V・G 槻 輪
代表者 大岡成一
http://web1.ibj.co.jp/~kirin

わがまち紹介

、障子しめて四方の紅葉を感じをり、…大山崎の寺・山荘



平成24年12月6日

(木曜日) 晴

阪急大山崎駅改札出口
10時20分集合

阪急大山崎駅→バス→山
莊美術館→徒歩→宝積寺
(宝寺)→参拝→山荘へ
散策→レストハウス(休
憩)庭園散策→バス or
徒歩→JR山崎駅

大山崎ふるさとガイド

の会 市川 孟様の親切
丁寧な説明をして頂きま
した。本当に有難う御座
いました。

大山崎町は、京都府下
で最も面積の小さい町で
す。旧山城国乙訓郡。南
に向かった河有りという
意味で「河陽(かや、か
よ)の別名があります。

丘陵地が平野に近く迫
り、そのふもとに桂川と
宇治川・木津川の合流点
が位置するため、山崎は
古来から交通の要地であ
った。明智光秀を豊臣秀
吉(当時は羽柴秀吉)が
破った山崎の戦いは天王

山麓で行われた。この故
事から雌雄を決すること
や勝負の分かれ目のこと
を「天王山を迎える」(ま
たは単に「天王山」と呼
ぶ成句が生まれた。

天王山城(てんのうざんじ
よう)

【別名:宝寺城・
山崎城】
「財寺城」、「宝寺城」、「天
王山城」と呼ばれていた。
JR山崎駅を出て右に道
があり踏切を渡ります。

渡つてまっすぐに坂道を
登ると宝積寺(宝寺)に至
ります。この宝積寺より遊
歩道を徒歩にて1.1kmで
山頂です。途中、山崎の合
戦時の豊臣方旗立て松な
どもある。本丸までは案内
板が整備されています。

豊臣秀吉が山崎の合戦で
明智光秀を破り、天下統一
と大阪城へ移るまで居城
とした城です。

宝積寺(通称 宝寺)

京都府乙訓郡大山崎町の
天王山中腹にある真言宗
智山派の仏教寺院。山号は

天王山または
銭原山(古く
は補陀洛山と
いった、本尊
は十一面観音
です。奈良時
代に聖武天皇
の勅願により僧・行基が
724年に開いたとされ
る真言宗の寺院。通称「宝
寺」といいます。鎌倉時
代の傑作といわれる本尊
の十一面観音像をはじめ
閻魔王と眷属御影など寺
宝が多い。参道沿いの三
重塔は羽柴秀吉が山崎の
合戦の際に一夜にして建
てたといわれ、美しい桃
山建築様式を今に伝える。
聖武天皇が夢で竜神から
授けられたという「打出
寺」(た
からで
ら)の別
名があ
り、大黒
天、宝寺
ともい
う。

大山崎山荘美術館

天王山の中腹に位置し、
木津・宇治・桂川の三川

を望む「大山崎山荘」。

美術館は、大正から昭和
初期にかけて加賀正太
郎によって建築された
「大山崎山荘」(登録有形
文化財)を本館として、
建築家・安藤忠雄設計に
よる地中館(1995年
竣工)、山手館(201
2年竣工)とともに公開
されています。

本館では、民藝運動に
参加した河井寛次郎、濱
田庄司、バーナード・リー
チの作品を中心に、古陶
磁、家具、染色作品など
を、地中館では印象派の
クロード・モネの代表作
として知られる《睡蓮》
の連作を展示しています。
2012年には新たに山
手館を加えて、年に数回
の企画展や、地域と連携
したイベントを随時開催
しています。

また、約5,500坪
の敷地面積を有する庭園
には数多くの植物が配さ
れ、四季折々に眼を楽し
ませてくれます。秋の庭
園は、山崎の紅葉の名所
としても紹介されていま
す。

S・O
(抜粋、詳しくは槻輪HP
をご覧ください)



かもめが同行してくれる佐渡への旅
折りからの時化のために海は大荒れ
沖に白波が立ち岩を砕く勢いで押し寄せる
内海は意外に穏やかでたらい舟がくたりくたりと進む
冬の風物詩「波の華」を見られたのはラッキー
悪天候もまた楽し!の「海外旅行」だった。S・N



2013年1月度行事予定

2013年2月度行事予定

高山右近研究室を訪問! : 郡家新町

(槻輪便り第100号発行記念: 特別企画)

月 日: 平成25年1月16日 (第3水曜日)

集合場所: 高槻市立しろあ歴史館 10:15 集合

順 路: しろあ歴史館→散策→高槻城近郊の町屋・散策→
JR高槻駅→新年親睦会(会場「麟」は高槻駅の近く)

落ち着いた・心のふる里を感じる“町屋”: 高槻城近傍
月 日: 平成25年2月20日 (第3水曜日)

集合場所: JR富田北バス乗り場(四中東側バス停) 9:50 集合 10:00 バス出発
順 路: JR富田北バス乗り場→巡礼橋(下車)→徒歩→高山右近研究室→舟歌
→昼食(今城塚公民館近傍)

その他: (1) 高山右近研究室HPは、「高山右近研究室・久保田へようこそ」で検索
(2) 久保田典彦先生より詳細な説明を予定しています。

その他: (1) 高山右近研究室HPは、「高山右近研究室・久保田へようこそ」で検索
(2) 久保田典彦先生より詳細な説明を予定しています。